

放射線業務支援の手引き 目次

出版によせて 木村哲彦・iii

はじめに・iv

Pre exposure（撮影前評価）造語の起源について・v

第 1 章 支援技術の基礎	1
1.1 序論	1
1.1.1 Pre exposure（撮影前評価）のすすめ	1
1.1.2 「思いやり」	1
1.2 外見からの pre exposure	2
1.2.1 体幹・四肢	2
（1）肩・肩関節	2
（2）肘・前腕部・手部	2
1.2.2 姿勢	2
（1）脊柱彎曲	2
（2）下肢	2
1.2.3 歩行と姿勢	3
（1）痙性歩行	3
（2）失調性跛行	3
（3）麻痺性跛行	3
（4）逃避跛行	3
（5）墜下跛行	4
（6）脱臼性跛行	4
（7）間欠跛行	4
1.2.4 脳機能	5
1.2.5 表在知覚・運動知覚	8

第2章 運動機能障害	9
2.1 支援介助技術の基本	9
2.1.1 介助の基礎知識	9
2.1.2 姿勢と介助	10
(1) 姿勢の安定に影響を及ぼす因子	10
(2) 代表的な姿勢	10
2.1.3 関節運動の種類	11
2.1.4 身体の面と運動	11
2.1.5 動作と運動	12
2.1.6 感覚の役割	15
2.1.7 介助者に利用されるてこの作用	15
2.1.8 てこの原理の有効利用の実例	17
2.2 障害のあらまし	18
2.2.1 障害部位の表し方とその原因	18
(1) 四肢麻痺	18
(2) 対麻痺	18
(3) 片麻痺	18
(4) 単麻痺	18
2.2.2 四肢麻痺・対麻痺（脊髄損傷）	19
(1) 頸髄損傷	19
(2) 胸髄損傷	20
(3) 腰髄損傷	20
(4) 仙髄損傷	20
2.2.3 片麻痺	21
(1) 大脳半球の障害	21
(2) 肩関節の「肩甲・上腕リズム」	22
(3) 拘縮	24
(4) 同側（性）半盲（半側失認）	25
(5) 垂直感覚の認知	26
(6) 痙性と弛緩性	27
(7) 中枢性麻痺	27

2.2.4	肢体障害	30
2.2.5	高次脳機能障害	32
2.2.6	高次脳機能障害の主な症状	34
2.3	介助の原則とレベルの評価	38
2.3.1	基本的考え方	38
	(1) 他動運動から自動運動による動作の遂行へ	38
	(2) 介助の量と部位を変えていく	38
	(3) 介助のスピード	38
	(4) 障害者に安心を与える	38
2.3.2	介助の原則	38
	(1) 室内の配置	38
	(2) 介助方法の選択	39
	(3) 介助のための姿勢と位置	39
2.3.3	介助のための患者・障害者の評価	40
	(1) 患者・障害者について	40
	(2) 介助について	40
2.3.4	車椅子利用者のレベル評価の実際	41
	(1) 頸髄損傷	41
	(2) 胸髄損傷	42
	(3) 腰髄損傷	43
2.3.5	豆知恵	43
	(1) 車椅子からみる障害レベル	43
	(2) 知覚障害の進行と分布	44
	(3) 体温調節障害	46
	(4) 障害程度の評価法	46
2.4	動作介助	48
2.4.1	動作介助の基本	48
	(1) 動作介助の補助具	49
	(2) 介助のための患者保持の仕方	49
	(3) 基本的なクッションの利用法	51
	(4) システムの順応	52
2.4.2	動作介助の実際	52

(1) 背臥位から腹臥位への寝返りのさせ方（全介助の方法）	52
(2) 起き上がりの介助（背臥位から長坐位になる）	53
(3) 起き上がりの介助（背臥位から椅子坐位になる）	54
(4) 坐位からの立ち上がらせ方（部分介助の方法）	57
(5) 車椅子から撮影台へ（全介助を1人で行う：片麻痺・四肢麻痺・対麻痺①）	58
(6) 車椅子から撮影台へ（全介助を2人で行う：片麻痺・四肢麻痺・対麻痺②）	59
(7) 車椅子から撮影台へ （全介助を2人で行う：片麻痺・四肢麻痺・対麻痺③-1）	61
(8) 車椅子から撮影台へ （全介助を2人で行う：片麻痺・四肢麻痺・対麻痺③-2）	62
(9) 車椅子から撮影台へ（部分介助：片麻痺・対麻痺）	62
(10) 車椅子から撮影台へ（部分介助：四肢麻痺・対麻痺）	64
(11) 車椅子から撮影台へ（部分介助：片麻痺）	65
(12) 車椅子上での基本姿勢（片麻痺）	66
(13) T字歩行（部分介助：片麻痺）	68
(14) 車椅子の取り扱いと注意	69
コラムシリーズ	73
・手首の負傷	73
・シビレや痛みの軽減	73
・てこの応用	74
・膝のロック	74
・単下肢による起立	75
・下肢の内旋	75
・MRの頭部検査	76
・腰痛の軽減	76
・移動方法の違いはなぜ？	76
・肩の痛み	77
・上肢の回旋メカニズム	78
・四肢における関節のロックと可動域の有効利用	78
・不安	79
・転倒の注意	80
・有機質な撮影環境	80

- ・ 人工観葉植物・80
- ・ BGM の利用・81
- ・ PC を用いた案内・81
- ・ 検査後の介助・81
- ・ 痛みの確認・81

第3章 視覚障害83

3.1 視覚83

3.1.1 視覚の基礎知識83

- (1) 視覚器の解剖と神経路・83
- (2) 視覚障害となるおもな病気・86
- (3) 眼疾患とその部位・92

3.1.2 視覚機能93

3.1.3 ロービジョン95

3.1.4 見えにくさの種類97

- (1) 屈折異常のみえにくさ・97
- (2) 視野狭窄によるみえにくさ・97
- (3) 中心暗点によるみえにくさ・98
- (4) まぶしさによるみえにくさ・98
- (5) 症状による視野障害・99
- (6) 視野認知テスト・99
- (7) 視覚障害の pre exposure・101
- (8) 視覚障害を伴った局在性の症例・101

3.2 視覚障害者の誘導法（手引き） 105

3.2.1 視覚障害者の誘導（目のみえる人による誘導） 105

- (1) 歩行・106
- (2) 誘導とは・106
- (3) 位置の把握・107
- (4) 基本姿勢・107
- (5) その他の注意点・108

3.2.2 さまざまな誘導法 109

(1) 基本姿勢が使えない場合・109	
(2) 狭いところの歩き方・110	
(3) 階段を手引きして下りるとき・110	
(4) 階段を手引きして上るとき・111	
(5) ドアや引き戸を通過するとき・111	
(6) いすへの着席・114	
(7) エスカレータの利用・114	
(8) そのほかに誘導で気をつけること・116	
3.2.3 検査室での誘導	116
(1) 更衣の誘導・116	
(2) 撮影台への誘導・117	
(3) X線TV検査(胃の検査)・118	

第4章 聴覚障害 121

4.1 聴覚のあらまし	121
4.1.1 聴覚の解剖	122
4.1.2 構造と音の伝わり方	122
4.1.3 聴覚障害の原因と種類	123
4.1.4 聴覚障害の種類	123
(1) 聴覚障害・123	
(2) 平衡機能障害・124	
(3) 音声・言語機能、咀嚼機能の障害・124	

オリエンテーション

・聴覚障害者とは・126
・ろう(あ)者とは・126
・聞こえの程度分類・126
・難聴の実際・127
・身体障害者福祉法における聴覚障害者の程度等級・127
・障害者程度等級判定基準・127
・聴覚障害者の不便さ・128
・聴覚障害者のコミュニケーション手段・128

・ 難聴者のコミュニケーション・129	
・ マスメディアから得る情報・131	
・ 聴覚障害者のリハビリテーション・132	
・ 突発性難聴診断の手引き（1973 年）・133	
・ メニエール病の診断基準（1975 年）・134	
4.2 聴覚障害者との手話	135
4.2.1 手話の基本	135
(1) 手話の種類・135	
(2) 表現方法・136	
(3) 手話の表現方法の違い・136	
4.2.2 指文字（50 音）	136
4.2.3 実践的な手話	140
4.2.4 ワンポイント手話	142
わすれない！ 障害者の訴え・149	
あとがき・152	
参考文献・153	
索引・155	